

平成30年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

平成31年3月14日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
より良く生きるための基礎・基本の習得 (学力、社会性、人間性)		(1) 授業に対するアンケートにおいて、「授業によって学力が伸びた」と答えた生徒が全体の87%であったことは、多様なニーズに応えるための様々な取組の成果である。一方、「日常的に家庭学習をしている」と答えた生徒は52%と低く、学力の定着、伸長に向けた大きな課題である。 (2) 月初めの2日間を「高校生活見直そう日」として、全教職員とPTA委員が校門にてあいさつと身だしなみ指導を行い、注意喚起するとともに粘り強く丁寧に指導することができた。特に、頭髪、装飾品の預かり指導については成果が見られたが、校外での身だしなみやマナー向上については今後の課題である。 (3) 今後のキャリア教育を中心とした3年間を見据えた系統的なカリキュラムになるよう改善していく必要がある。支援を必要とする生徒の情報を教職員が共有するとともに、共通理解を深め配慮をすることができた。 (4) カウンセリングを必要とする生徒・保護者が多く、スクールカウンセラーの時間不足が課題である。本校の特色ある科目や取組を広報するため、ホームページの更新、中学校訪問、学校説明会を積極的にを行い、情報発信に努めた。結果、多くの中学生や保護者に本校について広報することができた。		(1) 学力の課題把握に努め、教科を中心として指導方法や授業改善、新学習指導要領や高大接続改革に関する研究・研修を行い、生徒の学力を伸ばす。 (2) 生徒の将来を見据えたキャリア教育を念頭に計画的な教育活動を行い、個々の希望に応じた進路の実現に努める。 (3) 身だしなみやあいさつを中心とした基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせ、人権を尊重し、ルールを遵守する社会に育てる。 (4) 行事や部活動、ボランティア活動等の教育活動や特色ある科目をとおして、地域とつながり、目標に向けて協同して取り組む力や社会の変化に対応できる能力の育成に努める。 (5) 日常的な美化活動をとおして情操豊かな生徒を育てる。 (6) 安心・安全に学校生活を送ることができ環境を整える。 (7) 特別な支援を要する生徒個々の教育的ニーズに応じて、適切な教育的支援を行う。			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題			
教育課程 学習指導 (教務部)	新学習指導要領に基づく教育課程の編成について検討する。	○ 特にプログレスコースにおいては高大接続改革を視野に入れた教育課程の編成を行う。 ○ 総合的な学習の時間について、キャリア教育を主体とする内容になるよう検討する。	B	○ 「総合的な学習の時間」(2年次)では、「自己・他者理解」「規範意識の育成」「社会の中で生きる力の育成」等のテーマに沿った学習をとおして、自ら考え、正しく判断できる態度の育成することができた。 ○ 次年度の年間行事計画については、年度当初の行事の集中化の改善、6月・11月に学力向上の取組の新設、学校祭実施時期等の検討を行い、学習に集中できる期間を確保できるように調整した。 ○ 観点別評価にもとづく授業の改善について、各研修会への参加や校内研修会により、教科内での研究が進み始めたが、教科を超えて体制を構築する必要がある。 ○ 次年度、新学習指導要領や高大接続改革に向けて、主旨を踏まえ本校の特色を生かした教育課程等の検討を進めていく必要がある。			
	年間行事計画の適切な編成と実施	○ 年間行事計画の編成において、各部・教科の意見を集約する機会を設け、意見をしっかりと反映することで内容の充実を図る。					
	授業の質向上および、生徒の基礎学力定着を図る。	○ 観点別評価の視点を踏まえた授業計画を作成し、評価・授業の改善が行えるよう情報提供や研修・交流の機会を設ける。					
特色推進 広報活動 (総務企画部)	中学生・保護者・地域に本校教育活動が理解されるよう、積極的な広報活動を行う。	○ 学校公開および説明会、個別相談会、広報紙、ホームページなどにより本校の教育活動をよりタイムリーに情報を発信する。 ○ 中学校の進路学習に伴う、中学生の受入や本校教員の派遣を行う。	B	○ ホームページをとおして、各行事の状況や本校の特色をタイムリーに情報発信することができた。学校公開や説明会、個別相談会に多くの中学生や保護者が参加され、情報提供することができた。今後も、よりわかりやすい情報を提供できるよう工夫しなければならない。 ○ 中学生の学校訪問の受け入れや、本校教員の出席授業等を積極的に進めていくことができた。			
生徒指導 (生徒指導部)	生徒と教職員との信頼関係に基づいた好ましい人間関係を確立し、家庭や地域社会との連携を密にする。 問題行動や非行の防止に向けて、自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	○ 身だしなみを整えて学校生活を送るため、頭髪、服装、装身具の指導を行う。女子はスカートの下に刺繍が入っているため、毎朝の校門指導だけでなく、月初めに高校生活見直そう日を設定し、指導機会を増やすことで加工や変形を許さないようにする。指導については全体に対しては粘り強く行い、個別では学年部(担任)や家庭と連携して指導を行う。 ○ 生徒指導部だよりを定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナーも含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高めた社会性を育成する。	B	○ 身だしなみ指導は、年度当初の1週間を「フレッシュ週間」、毎月始めの2日間を「高校生活見直そう日」として設定し、教職員・PTA・生徒会で、正しい身だしなみへの意識付けを行い、校内では一定の成果をあげた。しかし、登下校時、校外ではスカートの巻き上げや化粧など、依然として課題があり、次年度も粘り強く意識付けを行う必要がある。また、指導体制に関して、今年度から全校体制で行っているにもかかわらず指導できていない状況がある。次年度は、教職員の一致した認識のもと指導を行う体制を構築しなければならない。 ○ 交通ルールやマナーの遵守に関しては、定期的な「生徒指導部だより」の発行や、担任を通じての注意喚起を行った。しかし、SNS等の取り扱いについては、個人情報や流布を含め課題は多く、全体はもとより必要に応じて個別指導を行っている。今後も情報科とも連携しながら、情報モラルの指導を継続していく必要がある。 ○ 生徒の人権意識を高めるために、学年ごとに講演とDVD鑑賞を行い、自他の人権を尊重する態度の育成に努めた。いじめに関しては、年2回のアンケートや担任による面談をとおして得た情報を共有するため、全教職員に情報提供の機会を持ち、必要に応じて見守り、指導を行った。			
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対応する。	○ いじめに向かわない態度・能力を育成するために、人権学習はもとよりあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。					
進路指導 (進路指導部)	学校紹介による就職内定率100%を目指す。	○ 高校生の就職制度を理解させる。卒業に向けて学習に全力で取り組ませる。 ○ 社会人としてのマナーを身につけさせるため、問題集の活用やロールプレイングでの実践を繰り返し練習させ、実社会での対応を目指す。 ○ 面接指導を徹底する。入退出動作の反復練習、文で答える姿勢、言葉のキャッチボールができるまで練習させる。また、社会人の面接官を招き、本番モードでの面接練習を設定する。	B	○ 就職希望者が大幅に増加する中、企業開拓や外部も含めた多くの方の面接指導等により、内定率100%と一部上場企業への内定を達成することができた。今後も、内定がゴールにならないよう、卒業まで指導を継続していく必要がある。次年度は男女比が逆転するが、女子の求人増加しおらず苦戦が予想されることを踏まえ、早期から指導を徹底していかなければならない。 ○ 指定校推薦に関して、早期に保護者同伴の説明会の実施を行うことで趣旨の理解徹底を図り、決定後も卒業まで全教員で継続して指導することが必要である。 ○ AO入試へのシフトに伴い、対策講座を設定し高い合格率を達成することができた。しかし、その多くは個別指導によるものが大半で、今後人数が増え続けると対応できない。公募推薦・一般入試では、中堅私大難化による影響も苦戦した。次年度は、より難化が進むことが予想されるため、AO対策も含め早急に取り組む必要がある。 ○ 3年生対象の進学補習は、学力伸長コース必修として通年補習をすることができ、AO入試対策講座にも総合探究コースから多数の参加があった。しかし、模擬試験・センター試験の受験者や後期補習受講者は激減した。各自の希望進路の実現に向けて、全体・個別指導を粘り強く続けていく必要がある。 ○ 今後、生徒のキャリア意識の高揚を図るために、学年ごとの課題を踏まえて適切な情報を提供することで、希望進路を定めること、進路の実現に向けて継続して取り組むことの重要性を指導していかなければならない。そのため学年部と密接に連携し、早期から生徒の希望進路を的確に把握するとともに、長期的な学習・受験計画の作成指導を行う必要がある。なお、進学・就職とも基礎学力は不可欠であり、家庭学習の習慣化や授業を大切にすることを意識、態度を身に付ける取組、指導の徹底は言うまでもない。			
	進路希望者の希望実現率100%を目指す。	○ 学年部と連携して学力実態等の情報共有を図り、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。 ○ AO入試に対応できるよう、志望理由書き方講座、小論文説明会・模試を実施する。生徒個人に対しても小論文指導や模擬面接を実施する。 ○ 大学入試改革に備え研修会を実施し、情報の収集と提供を図る。					
	学校保健 学校安全 特別支援 (保健部)	生徒へ適切な教育的支援を行う。		○ 教育相談会議・教職員研修等を活用し、特別な支援を要する生徒に対して、教職員間の連携を密にして組織的な支援を行う。 ○ スクールカウンセラー制度を活用して課題を抱える生徒の援助を行う。 ○ 身体的にハンディがある生徒への共通理解と支援を充実させる。	B	○ 教育相談会議や教科担当者会議等とおして、支援を必要とする生徒の情報を教職員間で定期的に共有、支援の方法や工夫について協議し、よりよい合理的配慮を提供することができた。 ○ 保健部、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、担任等が連携を取り、必要と思われる生徒や保護者にカウンセリングを勧めた。 ○ ゴミの分別が改善されつつあり、ゴミ削減に一定の成果が見られた。一方、日常清掃や大掃除は十分であったとは言えない。次年度から、校時変更により一週間をとおして清掃時間を確保することができるので、美化意識の醸成、学習環境の整備の観点から清掃指導の徹底を進めていかなければならない。併せて、美化・保健委員会の活動を通じて、掲示物等を用いてゴミ分別やエコキャップ運動等の情報発信を行い、啓発する。	
	学習環境の整備を図る。	○ 美化週間・大掃除・日々の掃除等を通して、全生徒がゴミの分別ができるようにさせる。					
	読書指導 視聴覚教育 (図書視聴覚部)	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。		○ 蔵書構成の適正化を進め、充実を図る。魅力的な図書を紹介する企画や読書啓発のための広報活動を積極的に取り組むなど利用者へ届く方策を探る。 ○ 教科と連携を図りながら、教科学習において、生徒の学習支援を行う。 ○ 視聴覚機器を活用し、授業の利便を図る。			
教育環境 整備 (事務部)	施設・設備の維持・安全管理をはかる。	○ 「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対処を行う。	B	○ 今年度は地震や台風など天災が多く、その対応に追われた。危険箇所については、定期的に巡回する中で早期発見し、修繕することができた。来年度は突発的な危険箇所の対応だけでなく、修繕計画をたてて執行していく。			
	文書管理の徹底と簡素化を図り、迅速・正確な情報伝達と個人情報の管理を徹底する。	○ 文書の保存・廃棄等文書取扱規程に基づく適切な文書処理を行う。 ○ 通知・通達等校外内の重要な情報については、速やかに伝達するとともに情報の管理を徹底する。		○ 今年度は、猛暑により光熱水費の削減に取り組むことができず、また、教科・分掌予算のヒアリングが遅れたため効果的な学校予算の執行ができなかった。次年度は、光熱水費の削減や「ムダ」をなくす取組を実施し、学校目標の達成に必要な予算の配分と執行を行う。			
	家庭や地域社会、関係諸機関との連携を密にし、適切な対応を行う。	○ 保護者や地域の方、外部からの電話の問い合わせ及び来校された方に対し、丁寧にわかりやすく対応する。					
	特色ある教育活動や広報活動等の実施のため学校予算の効果的執行を行う。	○ 各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。 ○ 節電等呼びかけ、光熱水費の削減に取り組み、使用量前年度比3%減を目指す。					
第1学年部	生徒が安心して学校生活を送り、自分の進路実現に向けて取り組むことができるよう支援する。	○ 経済的理由によって就・修学、進学・就職が実現できないということが生じないよう、各種保護制度について生徒・保護者・教職員に周知し、必要な場合の請求漏れを防ぐ。	B	○ ショートホームルーム学習やロングホームルームで、漢字・英語検定の演習に取り組むことができた。しかし、少ない家庭学習時間を改善させるため、次年度から宿題を与えて取り組ませる。 ○ 部活動の未加入生徒をボランティア部と位置付け、地域清掃等に全員を参加させることができた。その結果、外部ボランティアへの参加に対しても意識が高まりつつある。 ○ 高校生活に慣れるにつれて身だしなみや授業規律に緩みが出たことは残念である。対策として、教員が生徒と関わる時間を積極的に増やし、必要に応じて個別に指導していく。 ○ 長期休業中に進路レポートを書かせたり、将来を意識させる指導を行ったことで、各個人が進路実現を目指す意識を高めることに繋がった。			
	学習及び特別活動に積極的に取り組みながら、個人及び集団の能力を効率よく伸ばす。また、互いの人格をリスペクトし、集団のルールを守ることを尊重させる。	○ 学習時間ゼロの日を無くすため、教科と連携し小テスト及び学年でショート学習を実施する。定期テストに真面目に取り組む集団を育成する。漢字・英語検定等の修得を視野に入れ、学年部から長期休業中の課題を与え、取り組ませる。 ○ 特別活動に積極的に参加させる。学校行事に生徒主体で取り組み、クラス・学年の団結を高める。部活動に未加入な生徒にボランティア活動等への参加を促す。 ○ 集団のルールを守ることが自分自身と他人を守ることと位置づける。人権守り、安全を確保するため、携帯電話を正しく使う指導をする。進路の選択肢を広げるために、身だしなみを整える指導をする。					
	落ち着いた高校生活を送れるよう、生活面について、律する心を育てる。それと共に、卒業後の進路を見据えた行動がとれるようになる。	○ 身だしなみ指導、特に女子のスカートや化粧について、生徒指導部と連携し指導する。 ○ 学校遅刻生徒に対し、原則として月毎に指導する。 ○ 学習習慣定着のため、教科と連携し、日々の課題・小テストなどに真面目に取り組むよう指導する。 ○ 「読書・読解力検定」準2級受験(全員受験)にあたり、教科と連携し、合格を目指す。					
第3学年部	授業規律を確保するとともに、学習習慣を身につけさせ、学力の向上を目指す。	○ 学校での授業を基本に、教室整備、机上整理や私語の少ない環境の中でそれぞれの進路に応じた学習指導を行う。 ○ 自学自習を目指し、学習室の利用、および家庭学習の啓発に努める。	C	○ 学習面、生活面でさまざまな課題を持つ生徒に対して、日常的に保護者と連携しながら指導に当たったが、今後、より具体的に丁寧な対応をしていく必要がある。 ○ よりよい集団を形成するために、個別指導・対応の重要性を痛感した。生徒個々の状況に合わせて、繰り返し粘り強く指導していくことが大切である。 ○ システムが構築されておらず、関係分掌との連携が不十分で、組織的な運営ができない面があった。分掌内での共有はもちろんのこと、関係各分掌との情報交換を密にし、連携していかなければならない。 ○ 進路指導について、学年として早期から進路先を決めていくよう指導した。結果、進路決定後に授業や進路補習等で学習姿勢を保てなくなる生徒が見られたことは反省点である。			
	自己及び他者を大切にし、規範意識の向上と自治的な力を付けさせる。	○ 身だしなみを含め学校生活を送るにあたり、ものごとの正しい判断基準を身に付けさせる。 ○ 文化祭などの学校行事を通じて、集団を意識させるとともに、自ら考え行動する力、評価する力を付けさせる。					
	一人ひとりの希望進路を実現させる。	○ 進路実現に必要な情報を適切な時期に提供するとともに、進路実現に向けた集団作りと、個別の指導・面談を状況に応じ随時行う。					
評価の基準 A:十分達成できている(目標以上の成果が得られている) B:ほぼ達成できている(ほぼ目標通りの成果が得られている) C:達成できているとはいえない(成果はあったが、目標は達成できていない) D:ほとんど達成できていない(ほとんど成果が得られていない)							
学校関係者評価委員会による評価	・生徒たちを取り巻く環境が複雑になる中、勉強以外の社会性という部分で新たな課題が山積し、教員が対応に苦慮している様子がうかがえる。高校の授業料の無償化に象徴されるように、高校教育の義務化とまではいかないまでも、ほとんどの中卒者が進学してくる中で、問題のすそ野も広がってきているようだ。その中でよく取り組んでもらっているように思われる。生徒の自主的な活動の積み重ねが学校の性格を変えていくので、今後も学校行事や地域との連携などに継続して根気よく取り組み、頑張っていたいただきたい。						
次年度に向けた改善の方向性	1 粘り強い全体指導に加え、教員が生徒と関わる時間を積極的に増やし、個別に指導していく体制を整える。 2 継続した生徒の学習意欲の向上のために、観点別評価にもとづく授業の改善について具体策を講じる。 3 早期から生徒の進路希望を把握した上で個々の状況に応じたアドバイス・指導を加え、その実現に向けた長期的な学習指導を行う。 4 基礎学力向上のために家庭学習の習慣化を図るための方法を考え実践する。						